



住まい備忘録 第23回

日本建築家協会 沖縄支部会員

上江田 正 (例GA2設計)

和の佇まい



開放された和室・居間・テラス

独立以来、数多くの住宅を手掛けております。

絵や写真を掛けて、住み手の好み徐徐に味づけ

面に好きな

ぎや移ろい、

む光のゆら

り、差し込

ハッとした

いでしょう

か。たとえ

ば窓から見

える景色に

ハッとした

り、差し込

む光のゆら

り、差し込

「開放性と安心感の両立」

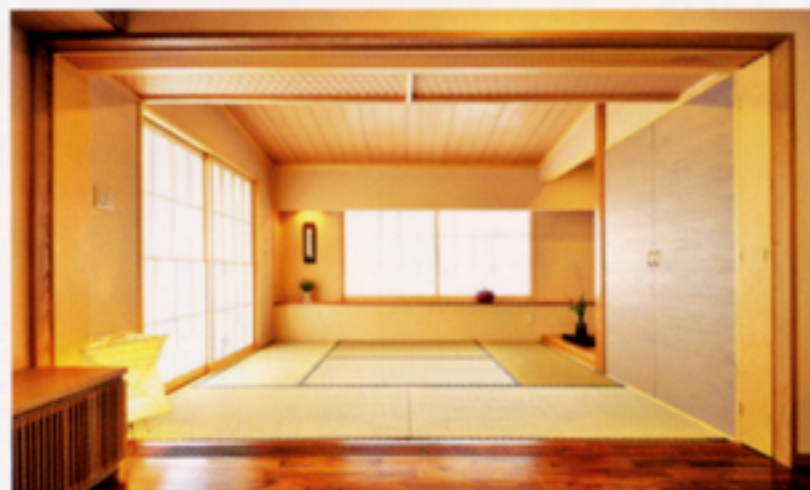
いろいろな条件の中で設計した住宅は、必ずやその家族にとっての「気持ちのいい」場所をつくり出してきたものです。

いい住まいとは、暮らしのうちに居心地の良さとは何かを予感させるものがあるのではないのでしょうか。たとえば窓から見える景色にハッとしたり、差し込む光のゆらぎや移ろい、何もかも壁面に好きな絵や写真を掛けて、住み手の好み徐徐に味づけ

されるような空間を形づくるようにしています。しかし、施工によって住みやすくなった住宅になったのか自問するのが常であります。最近では若い家族の志向によりシンプルで白い空間の住まいを多く計画して

いる中で久しぶりに、私達日本人の感性が失われない空間を表現する熟年の御家族の住まいを設計する機会にめぐまれました。

日本家屋の持つ、障子や襖を開ければ空間がつながるといふコンセプトを基に家主の希望でもある区切りながらも心理的に連続する空間と、明るい住まいを計画しました。というのも、三十代で建てた住宅は、各室が独立し、閉鎖的で、明かりの乏しい住まいだったからです。今回は施主の奥さんの心がかもし出す大らかな雰囲気や大事にし、又、料理好きな奥さんの為に、食空間を住まいの中心に置きインテラスを連続させて極上の光と景色を家族全員で共有できるようにレイアウトにしました。光をいかにデザインするかを設計のポイントにし沖縄の強い光を障子や木ルーバーでやわらげ、木の持つエッセンスを多用し、円熟の御夫婦のために住み心地の良い空間を設計しました。



和の佇まい

素材に関しても、建築家の押し付けにならないよう、住み手の思いをきめ細やかに対応して選択したものです。

完成した空間に満足した家族は、新たな家具購入にも私達のアドバイスを求めました。

せっかくなので空間を設計しても、家具等で台無しになる事もあるという事を話していたものから……。

住宅とは、住み手の人生に関わり長い時間の中で変化する場所であります。「和・洋」にこだわらず、住み手の思いを叶え、そして、「さりげなく美しい住まい」を目指し、住まい手と共に練り上げられるまだ見ぬ空間を求めて日々、努めていきたいものです。